

哀悼

総会案内の返信ハガキなどにより、次の方たちのご逝去の連絡がありましたので、ご報告いたします。

ご逝去者	卒年科	ご逝去日
松山 祐三	昭22採	
島崎 秀治	昭24機	2004年
千田 耕蔵	昭26採	
出雲 正一	昭27土	
佐藤 敬一	昭29建	
桜田 明雄	昭30治	
佐藤 昇	昭30治	2024年5月
富樫 順吉	昭31機	2023年
佐藤 速男	昭31採	2021年10月4日
阿部 勲	昭31土	2023年9月9日
小山田 了四郎	昭33電	2021年1月
越後屋 藤己	昭33化	2023年4月3日
太田 秀雄	昭36機	2021年5月
佐藤 邦彦	昭36機	2022年9月14日
加賀谷 健治	昭36電	2024年5月26日
戸嶋 禮助	昭36電	2024年9月
鎌田 國雄	昭37土	2024年8月20日
田口 昭義	昭37建	2023年10月19日
堀内 義信	昭39治	
伊藤 幹雄	昭41治	2024年5月6日
登利屋 邦雄	昭44電	
勝田 光隆	昭45電	2024年7月9日
早川 千代治	昭46電	2025年7月
富士崎 光子	昭47建	2023年3月

心よりご冥福をお祈りいたします。



編集後記

令和7年の令和米騒動、「米は売るほどある」の失言で農林大臣が更迭されました。我が家では毎年秋に、近隣農家から300kgほどの玄米を購入していますが、昨年秋は例年の7割に減量されました。今振返ってみると、全国的な米生産量の減少が背景にあるのではと思います。さて会報Kanasaの現状ですが、最近マンネリ気味になっているのを感じて、読者の関心に合わせた内容への再編集を行いました。背景には会員数の減少や高齢化に伴う活動制約の増加があり、同好会の活動が低調化しつつあります。この中で従来の編集スタイルでは、今後の継続発行に不安があると判断しました。

また広告について、3種類のサイズと各々のモノとカラーで合計6種類ありましたが、これを2種類のサイズとしかつ全てカラーに統一し、視認性を向上しました。読者のご意見並びに寄稿を願う次第です。

編集長 嵯峨 良平 (S43E)

当会のホームページの記事作成や、投稿者の原稿の手直しの際には、ChatGPTを頻繁に活用しています。自分の記事を書く時、記事そのものを最初からAIに書いてもらおうかと思うこともあります。実際、おおよその意図や構成を伝えるだけで、それなりに整った文章が出力されるのは確かです。ただ、そうして生成された文章には、どこか人工的な文体やトーンが漂い、読み手としてしっかりこないことが多いのも事実です。やはり、記事というものは、まず自分の頭で考え、自分の言葉で書いたうえで、推敲や表現の確認の段階でAIの力を借りるのが、もっとも自然で納得のいく使い方だと感じています。AIと関わるなかで、改めて実感するのは「文章は人を表す」ということです。読み手に届く言葉には、その人の思いや姿勢がにじみ出るものです。だからこそ、最終的な表現には、自分自身の考えと手が加わっていることが、大切なのだと思います。

編集委員 赤川 均 (S41E)

去年8月から今年の7月にかけて、4冊の本の装幀を手がけた。工業デザイナーとして独立し、どちらかといえば地味な業種、テレビでコマーシャルされるようなのではないいかにも工業製品然とした分野のものの外装デザインなどの扱が多かった自分が、いつの間にやら詩であるとかエッセイであるとかの編集ものの装幀デザインをやっていることに、なにやら不思議なものを感じる。

ページもの(冊子系)の制作は、他でもない、会報「金砂」が初めてだった。取説をやっていた関係で印刷の知識は多少あったが、初号、何をどうやって作ったのか覚えていない。

会報のようなものの方が本づくりより多分難しい。難しいというより、面倒が多いという方が当たっているだろう。

そろそろ会報から解放されたい・・・などと、愚痴愚痴と思いつつも、今年も制作完了だ。

編集委員 船木 一美 (S48M)